

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	入居後における状態変化(施設機能の変更を伴うような重度化)時におけるご家族への説明は口頭で行い、その記録は保存されている。	施設機能の変更等に係る家族との話し合いの中に、行き違いが発生しないようにする。	外部評価時においてご教示を頂いたように、デリケートな問題であるため、入居時における十分な説明と状態変化時における話し合いについても、合意形成された内容の取扱いについて慎重な文書形態を考え、ご家族にも分かり易いものにする。	平成30年6月30日
2	2	「事業所と地域の付き合い」については管理者が中心として関わっているが、関係性が薄いと思われる	多くのスタッフが何かしら、地域活動に関り、スタッフの地域意識を高めたい。	年2回ほど、事業所前の通学路の清掃活動をスタッフにも参加してもらおう。	平成30年6月30日
3	9	思いやり意向の把握が脆弱かと思われる	本当の思いやりとして、本人の心の中の世界に沿っている	認知症高齢者から発せられる言葉は、様々な精神的、心理的経路をたどってくると感じられます。その時スタッフが、「何故、今、この言葉なのか」ということが考えられるような「体質」に変えていくため、管理者からスタッフへ問いかけを多くしていきます。	平成30年6月30日
4	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保についてはスタッフの価値観によって左右される場合がある	人格を尊重するとは何か、もい一度今、スタッフに考えてもらい、そしてまた具体的には入居者の方が何を求めているのかを「推察できる能力・姿勢」を持ったスタッフの育成	「求めている」という心の世界が在ることを、まず徹底して知ってもらおう。心理学的にはマズローの欲求論を理解してもらおう。	平成30年6月30日
5	18	日常的な外出については、スタッフの意識性に大きくかかわっていると考えられる。	外出できる時間は創るものであり、時間があつたら外出するでは、殆ど外出は無理である。この認識をしっかりと持ってもらうながら、実践していく	出勤職員の役割分担を上手に行い、意識性として少しの時間でも外出する機会をもうけていく。	平成30年6月30日

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。